

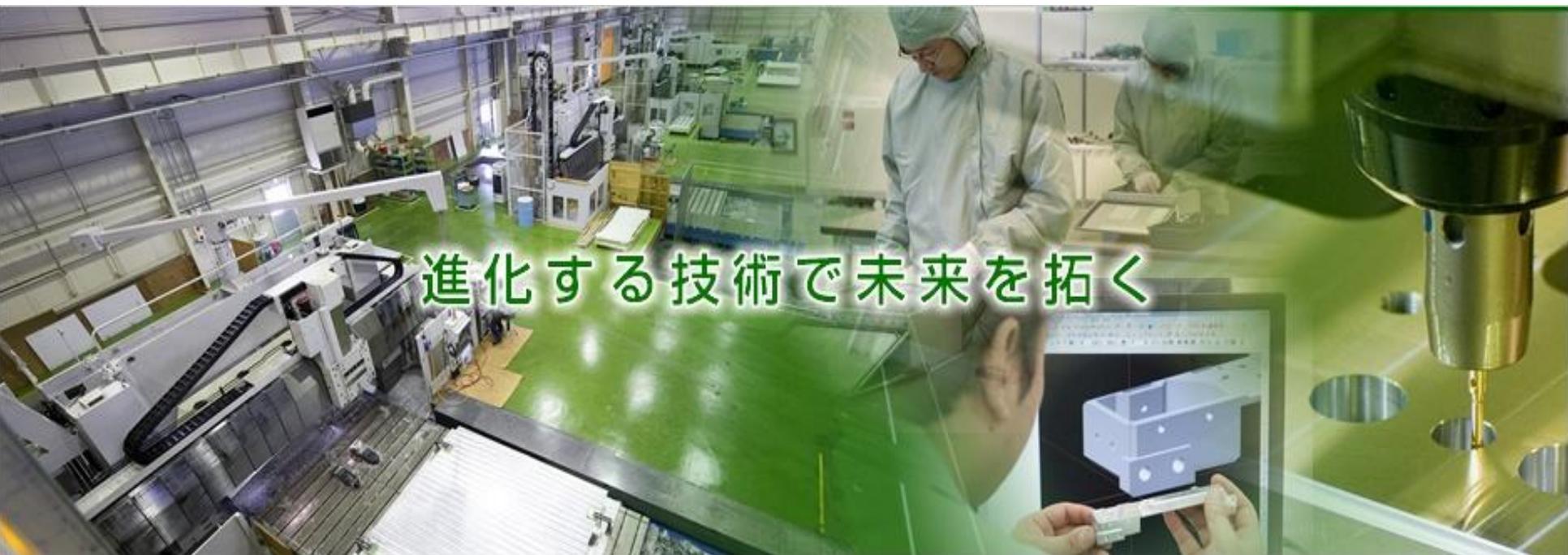


東証マザーズ(TSE Mothers):6264

株式会社マルマエ

平成26年8月期 第2四半期決算説明会

平成26年4月18日
大手町サンケイプラザ 202号室



進化する技術で未来を拓く

1.決算概要



P/L分析

P/L

	平成25年8月期 第2四半期累計期間		平成26年8月期 第2四半期累計期間		
	金額 (百万円)	割合 (%)	金額 (百万円)	割合(%)	対前年同期 増減率(%)
受注高	639	—	857	—	34.0
受注残高	186	—	272	—	45.9
売上高	584	100.0	701	100.0	20.0
売上原価	410	70.1	500	71.3	22.0
売上総利益	174	29.9	201	28.7	15.3
販売管理費	94	16.1	91	13.0	▲2.8
営業利益	80	13.8	109	15.7	36.6
経常利益	87	15.0	103	14.8	18.8
特別損益	0	—	9	1.4	—
当期純利益	85	14.7	112	16.0	30.8
EPS(円)	49.22	—	64.39	—	30.8
EBITDA	137	—	159	—	16.0

Point

①受注状況

- FPD分野:200百万円
(対前年同期:50.1%減)
- 半導体分野:364百万円
(対前年同期:65.1%増)
- その他分野:291百万円
(対前年同期:大幅増加)

②売上高

- 対前年同期20.0%の増加
※分野別の詳細は次頁

③売上原価・売上総利益

- 外注加工費:69百万円増
(対前年同期:130.4%増)
- 材料費:72百万円増
(対前年同期:90.1%増)
- 減価償却費:6百万円減

④営業利益

- 販売管理費は若干の減少

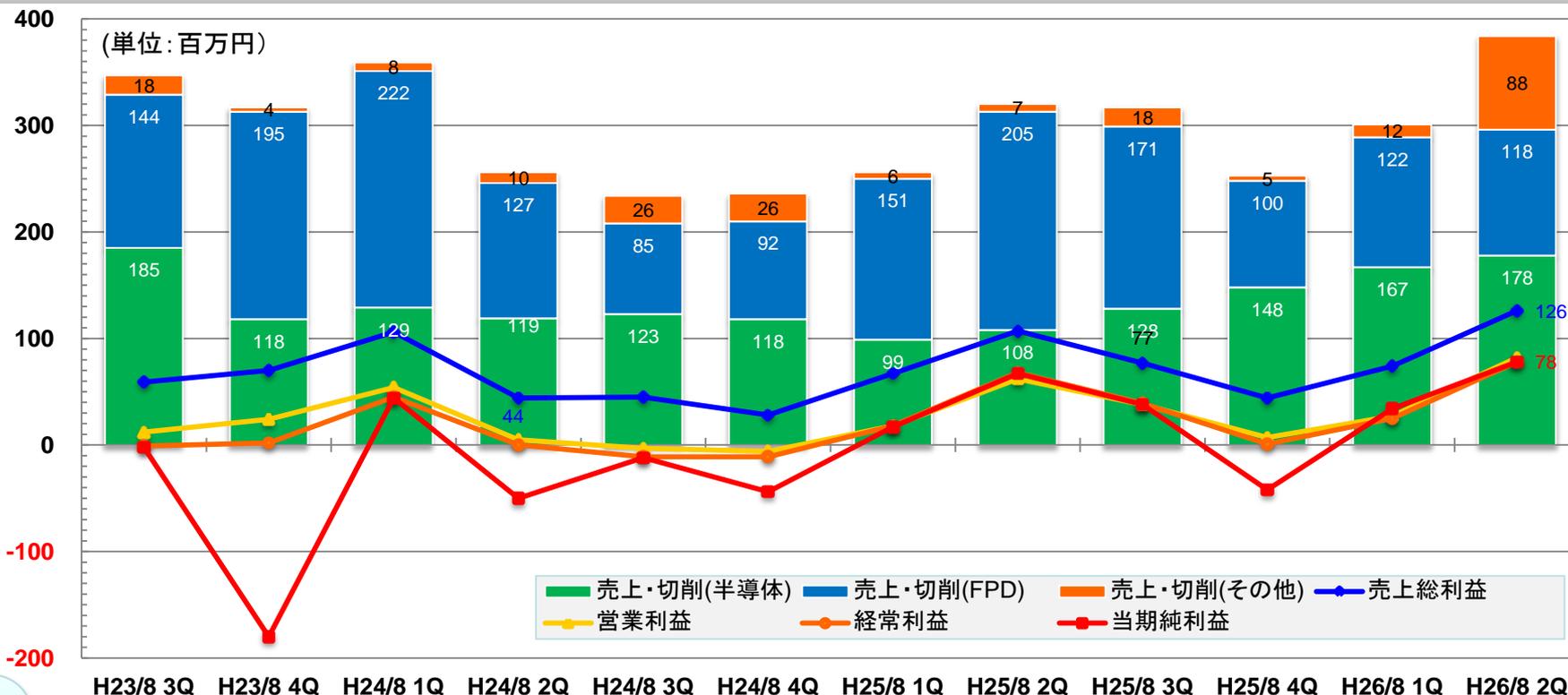
⑤営業外収益/費用・特別利益/損失

- 支払利息:7百万円
- 補助金収益:10百万円

1.決算概要



四半期業績の推移



Point

①売上高は、半導体分野がけん引(数値は通期)

- FPD分野:240百万円(対前年同期:32.7%減)
 - ・ 独自技術を生かし真空装置部品を中心に受注を獲得
- 半導体分野:345百万円(対前年同期:65.7%増)
 - ・ 既存顧客からの受注品種拡大と生産体制整備と強化
- その他分野:100百万円(対前年同期:629.4%増)

②損益面では売上高の増加と生産性向上で順調

- ・ 受注品種の変化により、材料費と外注費が増加
- ・ 生産性改善と売上高増加により営業利益を拡大
- ・ 固定費削減効果が寄与
- ・ 特別利益の計上

1.決算概要

B/S分析

B/S

(単位:百万円)	平成25年8月期 会計年度末	平成26年8月期 第2四半期末
流動資産	747	701
現金及び預金	326	169
受取手形・売掛金 電子記録債権	370	403
たな卸資産	40	124
固定資産	913	939
建物・土地	586	578
機械及び装置	230	304
流動負債	261	129
有利子負債(短期)※	176	—
固定負債	1,305	1,305
長期借入金	1,303	1,303
負債合計	1,566	1,434
純資産合計	93	205
総資産	1,660	1,640

※ 有利子負債(短期): 短期借入金+1年内返済予定の長期借入金

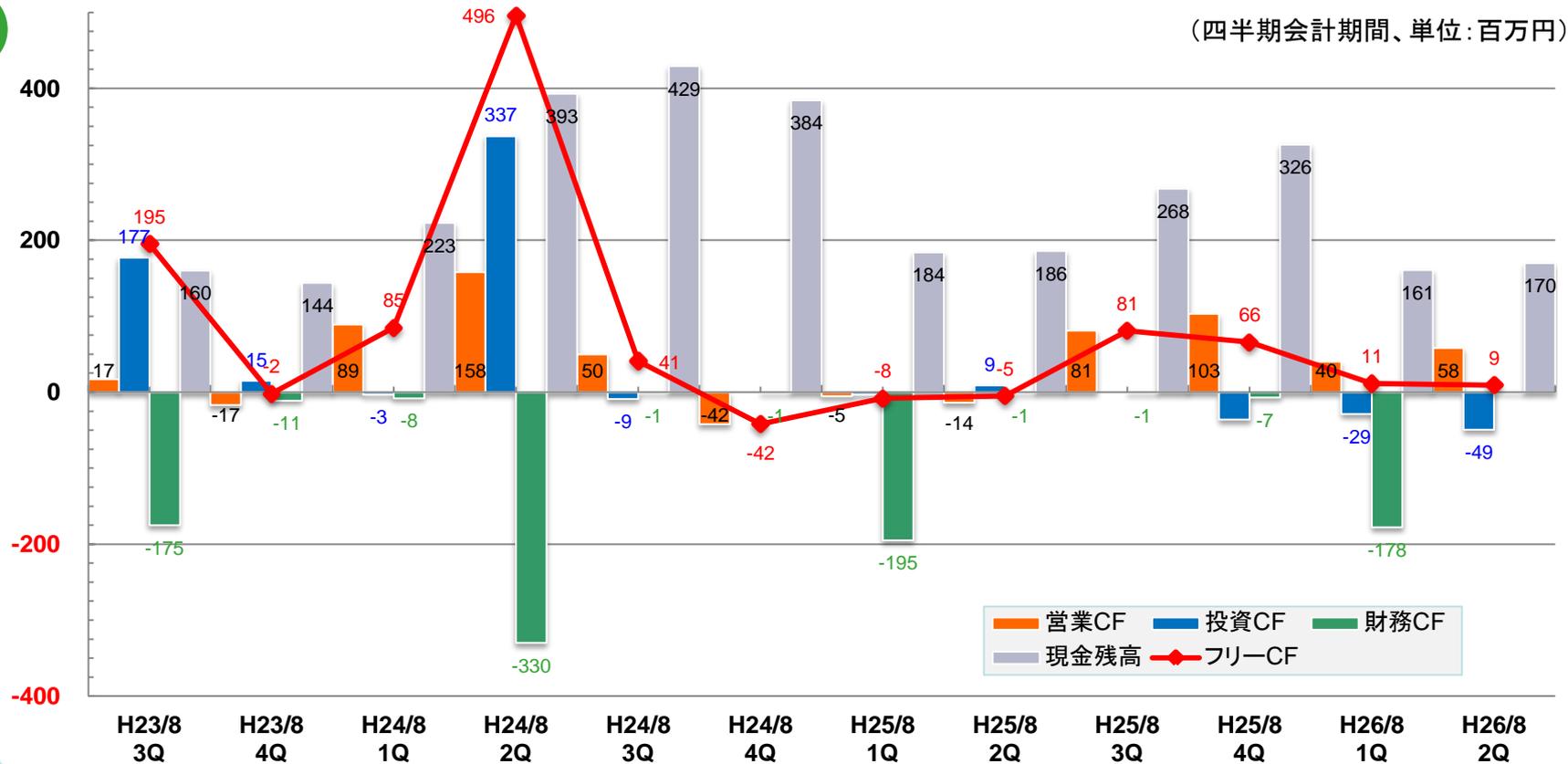
- Point ① 資産: 1,640百万円(前期末比: 19百万円減少)
- 現金及び預金: 156百万円減少
 - 電子記録債権: 28百万円増加
 - たな卸資産: 84百万円増加
 - 有形固定資産: 26百万円増加
- ② 負債: 1,434百万円(前期末比: 131百万円減少)
- 1年内返済予定の長期借入金: 176百万円減少
- ③ 純資産: 205百万円(前期末比: 112百万円増加)
- 自己資本比率 12.5%



1.決算概要

CF分析

CF



Point

①営業活動によるCF(通期)：98百万円

- ・税引前当期純利益による増加：113百万円
- ・減価償却費による増加：50百万円
- ・仕入債務の増加による増加：45百万円
- ・売上債権の増加による減少：32百万円

・棚卸資産の増加による減少：84百万円

②投資活動によるCF(通期)：▲77百万円

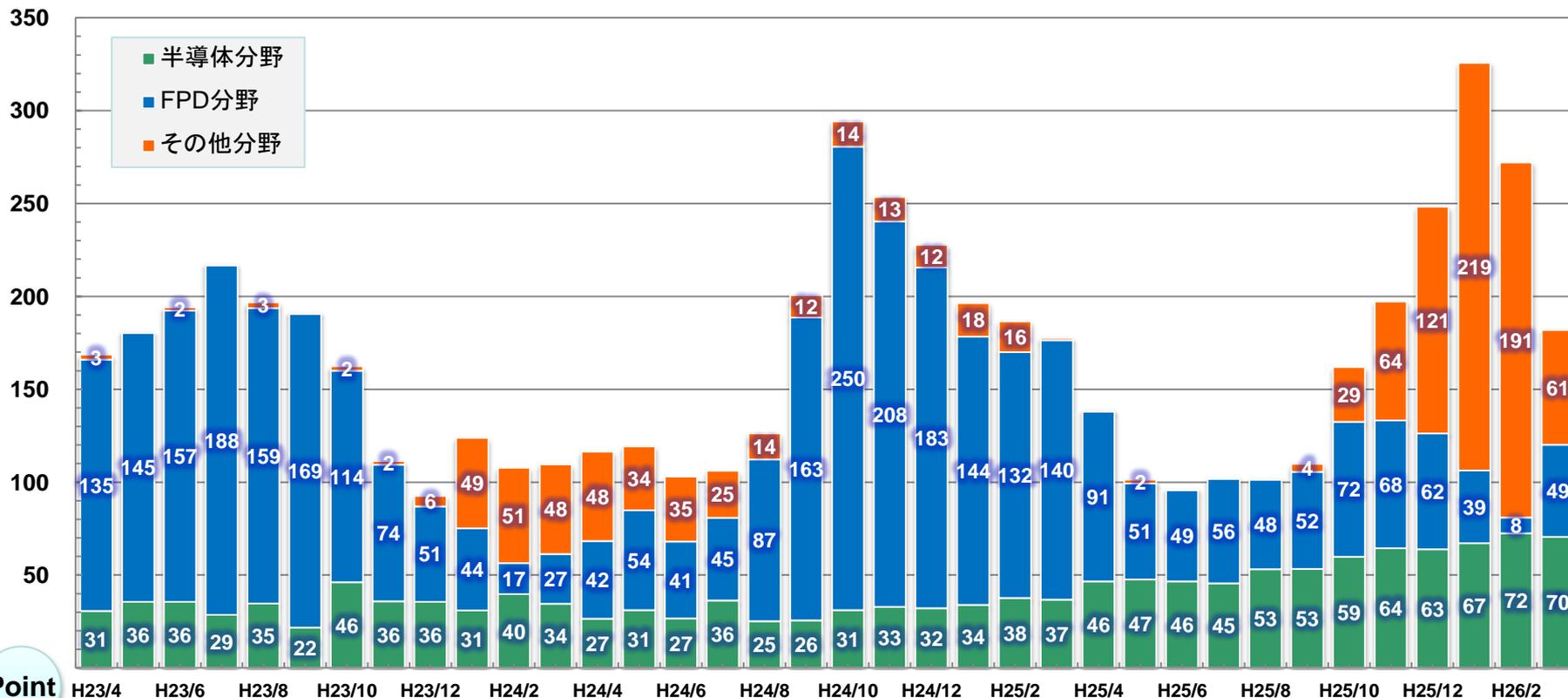
- ・有形固定資産の取得による支出：76百万円

③財務活動によるCF(通期)：▲178百万円

- ・長期借入金の返済による支出：176百万円

月次受注残高の推移

(単位:百万円)



Point

- FPD分野は、改善傾向が出始めるも小幅な改善にとどまる見通し。
- 半導体分野は、市場環境は踊り場の状況ながらも受注品種の増加傾向が継続。
- その他分野は、出荷検収に伴い受注残高は減少しながらも、一定の受注は継続する見通し。

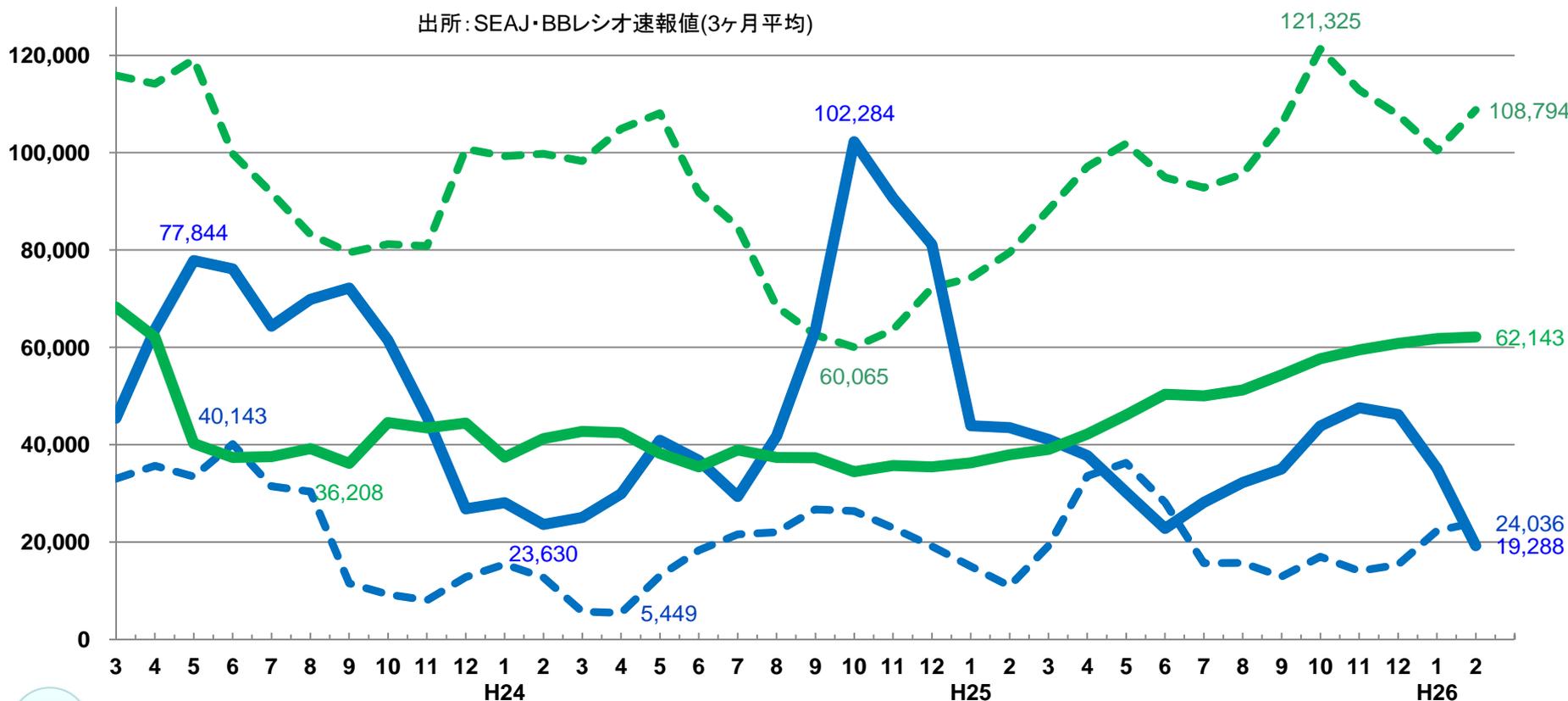
※当社の受注は、案件ごとに長ささまざまなリードタイム(LT)があり、LTの長い案件が多いと売上高に比べ受注残が多めで、LTが短い案件が多いと売上高に比べ受注残は低めに表れます。(主に半導体はLTが短く、FPDはLTが長めです)

市場とマルマエの受注動向比較(3ヶ月移動平均数値)

受注

— FPD製造装置(日本製) 受注額(百万円) - - - 半導体製造装置(日本製) 受注額(百万円)
— マルマエFPD分野(切削加工) 受注額(千円) — マルマエ半導体分野(切削加工) 受注額(千円)

出所: SEAJ・BBLレシオ速報値(3ヶ月平均)



Point

- FPD分野では、中国向けの設備投資に関連した受注が増加。
- 半導体分野は、新規装置は横ばいながらも、工場稼働に伴う消耗品需要と改造案件の増加で好調。

販売分野別の環境と営業方針のまとめ

FPD分野

- ◆ 中国においてG5～G8の設備投資が複数進行
- ◆ 韓国メーカーの台頭もあり、マルマエ顧客の受注は低迷傾向
- ◆ 新規顧客開拓と消耗品受注品種拡大の継続

半導体分野

- ◆ エッチング活況も他工程は停滞し、需要中心も台湾から米韓へ
- ◆ 新規装置は鈍化みえるも消耗品と装置改造多数
- ◆ 受注品種拡大に合わせ社内設備の増強を進める

その他分野

- ◆ 新顧客の需要は大山超えるも継続的需要続く
- ◆ 部品受注からユニット組立までの受注を拡大し、新たな柱へ育成
- ◆ 部品製造には協力企業活用で変動費化狙う

3.平成26年8月期の業績予想

今期の見通し(損益・設備投資・固定費要因)

業績
予想

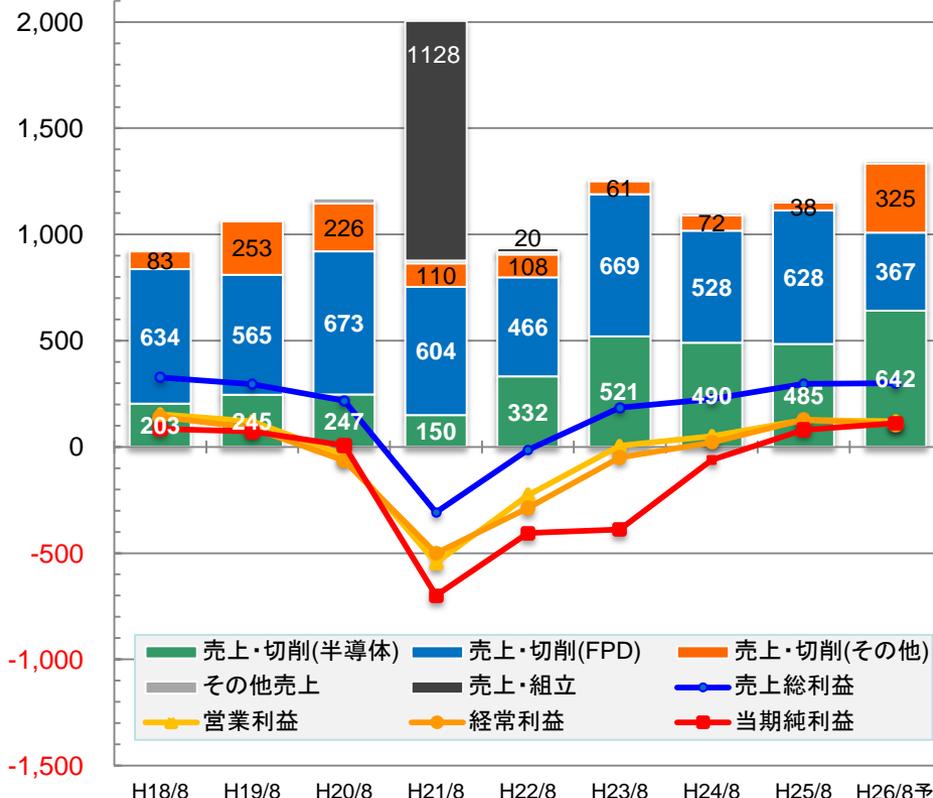
(単位:百万円、1株当たり当期純利益は円)

平成26年8月期 業績予想	売上高	営業 利益	経常 利益	当期 純利益	1株当たり 純利益
通期	1,350	120	105	112	64.19

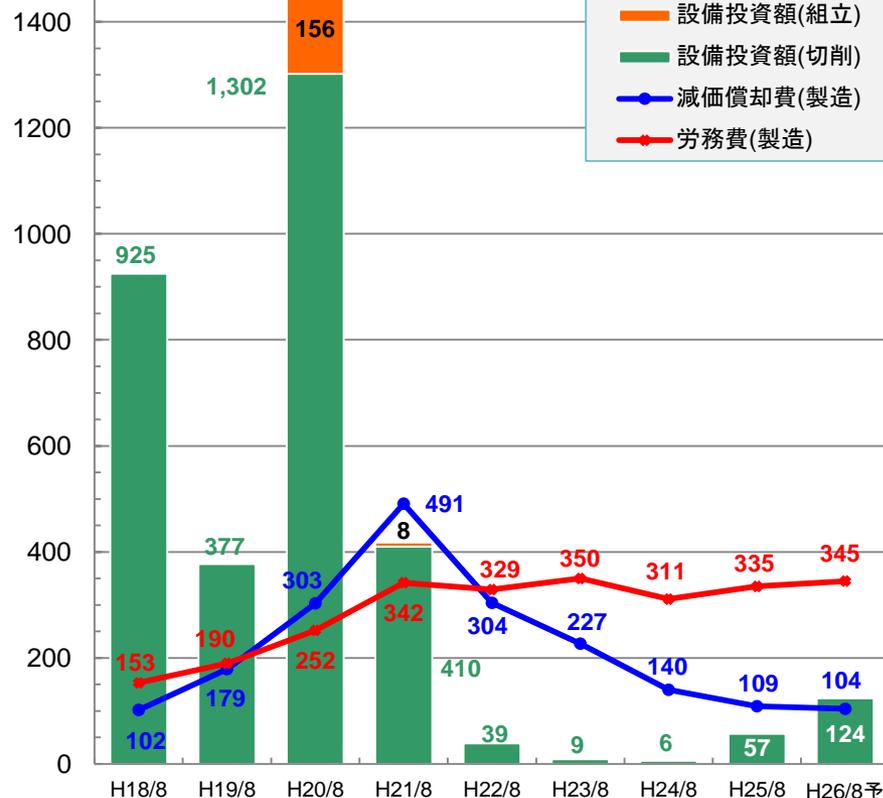
Point

- ✓ 通期予想の修正(H26/3/28)
- ✓ 半導体分野は好調に推移
- ✓ 半導体分野に向けた設備投資再開

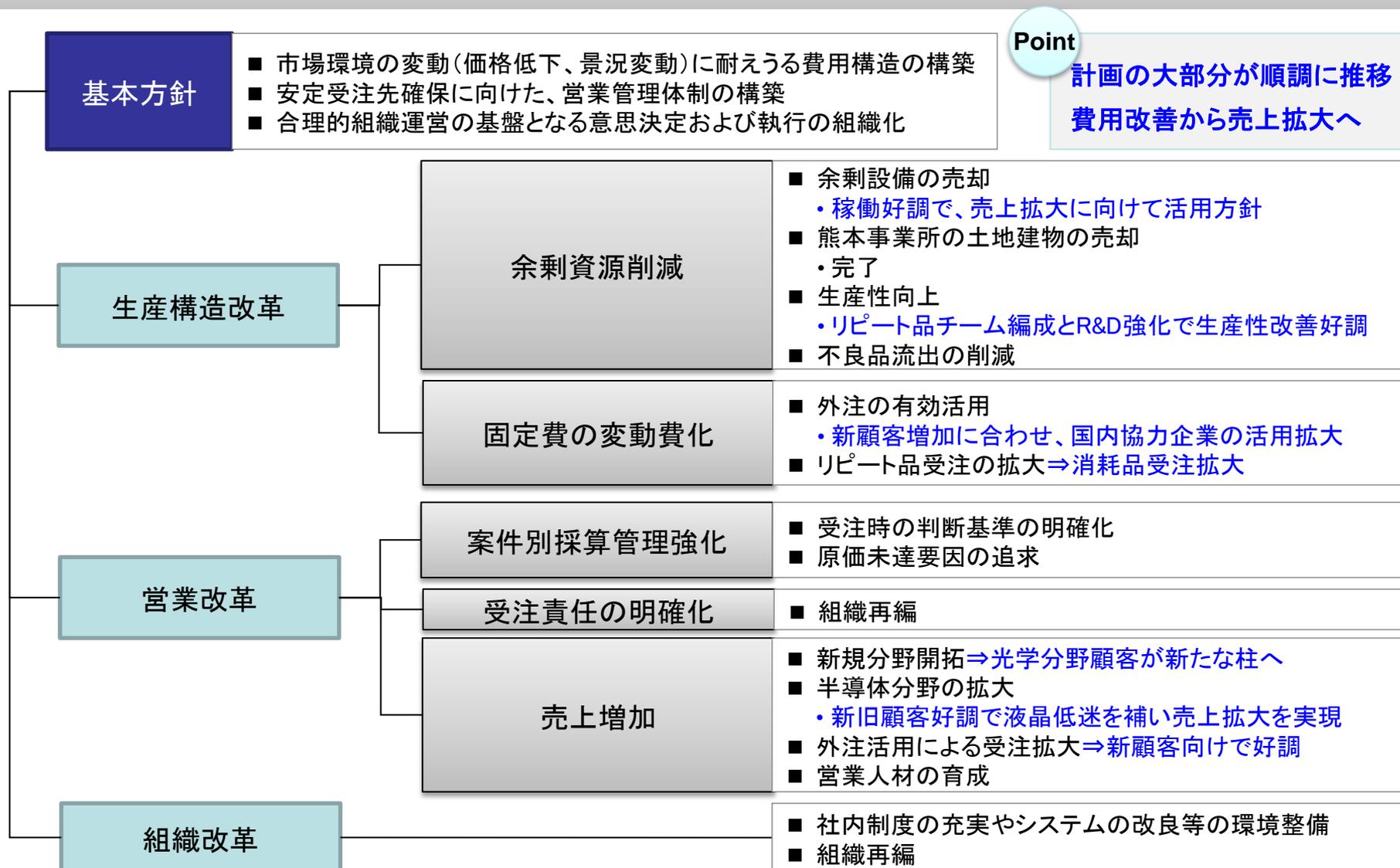
(単位:百万円)



(単位:百万円)



事業再生計画の進捗



本資料に掲載された情報、及び、口頭によって説明された実現していない内容に関しては、ある一定の仮定の元に予想された見通しであり、マルマエ経営陣の判断など不確定要素を含んでおります。

本資料は、株主・投資家などの皆様にマルマエの現況と経営方針をご理解いただくために作成されたものであり、利用者に対して、当社株式の購入・売却など投資判断を提供するものではありません。投資に関する責任は負いません。

数値などの情報には注意をはらっておりますが、掲載の内容については未監査の数値も多く、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報、またはその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料に関するお問合せ先

株式会社マルマエ 管理部総務課 IR担当

ir@marumae.com

TEL 0996-64-2900 FAX 0996-64-2863



Company Profile

企業情報

進化する技術で未来を拓く

会社名	株式会社マルマエ (Marumae Co., Ltd.)		大株主 (普通株式)	前田 俊一	9,277株
設立	昭和63年10月			株式会社マルマエ(自己株)	1,094株
資本金	1億3300万円 (平成26年2月28日現在)			前田 美佐子	840株
役員	代表取締役社長 前田俊一			マルマエ共栄会	324株
	専務取締役 山元弘	監査役 兒島吉二		前田 良子	300株
	取締役 海崎功太	監査役 寺畑幸雄		五十嵐 光栄	279株
	取締役 藤山敏久	監査役 大道卓		齋藤 格	269株
従業員数	83名 うち 臨時雇用者等16名 (平成26年2月28日現在)			中川 信幸	181株
所在地	本社	〒899-0401 鹿児島県出水市高尾野町大久保3816番41		石川 美智子	177株
	関東事業所	〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町2-17-15		マルマエ従業員持株会	168株
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・精密機械・精密機器の設計・製造・加工・組立 ・精密機械部品の設計および製作 ・溶接部品の設計製造 ・運送業務 		敬称略 平成26年2月28日現在		
経営理念	<ol style="list-style-type: none"> 1.技術は究極を目指し 2.競争と協調を尊び 3.技術注力企業として社会に貢献する <p>経済を支える“モノづくり”の中で、モノづくりの源流である部品加工にこだわっていきます。 そして、さまざまな分野で総合メーカーを支えられる企業となるために先端技術と供給力を持つ部品加工のリーディングカンパニーを目指します。</p>				

進化する技術で未来を拓く

年月	沿革
昭和40年4月	鉄工所を故前田務(元社長、元相談役)が個人で創業
昭和63年10月	個人経営の鉄工所をマルマエ工業有限会社(現当社)に改組(出資金2,000千円)
平成4年	オートバイ部品製造目的のT'sM'sR&D(現当社事業)を前田俊一(現代表取締役社長)が個人で創業
平成9年9月	T'sM'sR&Dの事業をマルマエ工業有限会社が引継いでR&D事業部を設置
平成9年10月	R&D事業部にて発電所用タービンブレード受注開始、3次元CAD/CAMの導入
平成12年3月	同時5軸加工機導入
平成13年4月	株式会社マルマエに商号および組織変更(資本金10,000千円)
平成15年12月	鹿児島県出水郡高尾野町(現出水市)に本店移転、新本社工場竣工、大型5面加工機導入
平成16年4月	工場増床、高回転型門型加工機導入
平成16年12月	日本証券業協会によるグリーンシート銘柄指定(証券コード6264)
平成18年2月	鹿児島県出水市知識町に新工場(知識工場)取得
平成18年12月	東京証券取引所マザーズ市場に上場
平成19年2月	熊本県菊池郡大津町の熊本事業所が稼働開始
平成19年5月	経済産業省発表の2007年度版「元気なモノ作り中小企業300」に選定
平成20年3月	本社第4工場竣工
平成20年4月	埼玉県朝霞市の関東事業所が稼働開始
平成20年5月	熊本事業所組立工場竣工
平成20年9月	熊本事業所加工工場増設
平成23年4月	熊本事業所の閉鎖
平成23年7月	事業再生ADR手続の成立

※注 個人事業部分については、月次の確定が困難なため月の記載を省略しております。